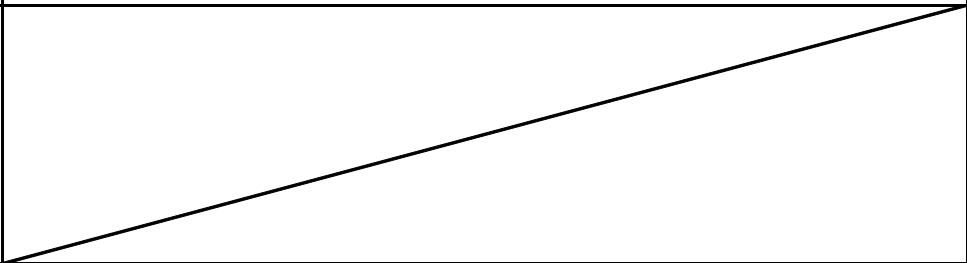


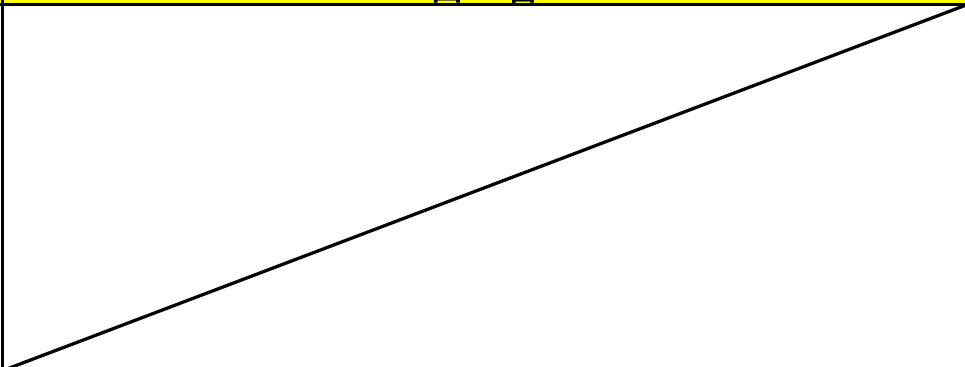
## 市長と語る会(H26.12.7実施)における意見及び市長の回答

No	意見	回答
1	協働の推進に関する基本方針の説明の中で、高齢者という言葉は出てきたが、障がい者という言葉はなかった。どのように考えているのか。	障がい者のことも含めた皆さんということで考えています。また、高齢者という言葉については、一つの事業の事例を紹介したのであり、決してそれに特化して協働しようというのではなく、障がいをお持ちの方々と連携している事業で協働として事例がないわけではないということをご理解いただきたい。
2	私達は視覚障がいがあるが、障がいになった時や転居して間もない時など、いろいろなところへ行きたいと思っても危険が伴うので、点字ブロックを早急に敷設してほしいと思っている。しかし、市に要望しても予算の関係上難しいと断られることが多く、予算が取れても仕組み上、敷設までに時間がかかる。この点について、どう考えるか。	点字ブロックの要望についてスピーディにやらなければいけないことは大原則であると思うが、どうしても予算がつきもので、そのような説明になったかもしれない。しかし、大がかりなものでなければ、少し工夫をすればできることだろうと思うので、できる限り迅速に行動するように職員に指示をする。
3	視覚障がいがあるため、今日もガイドヘルパーさんに同行してもらっているが、ちゅうバスは、介助者と合わせて二人分の料金がかかる。この前まで住んでいた仙台市では、市バスと地下鉄を、障がい者は無料で介助者は半額で利用できた。障がい者はどうしても低所得の人も多いし、助かっていたが、このたび転入した府中市は結構交通費がかさむので、ちゅうバスもせめて介助者の分は無料にしてほしい。	ちゅうバスについては、料金や路線を決める検討協議会があり、ちょうど今、現在の料金体系で1年間で1億円ほど赤字が出ている現状を踏まえて、次の時代に向けた運営のあり方を、バスやタクシーの事業者のほか、障がい者を含めたいろいろな団体の代表の方々や公募した市民の方を交えて協議を始めたところである。そのため、介助者についてのご意見も検討事項とするよう伝えていく。
4	仙台市では、月に50時間ガイドヘルパーを利用することができたが、府中市では月30時間である。それはなぜなのか、もっと増やせないのか。	市としても、視覚障がいの方とも直接話し合いをしながら、いろいろ検討した結果、この時間を決めてきたと思っている。仙台市がそうだからと言って、直ぐには何とも言えないが、担当課には、このご意見が強くあったということを伝えて、ほかの自治体の状況もよく調べる中で、府中市が特に不足しているということがないようにしたいと思う。

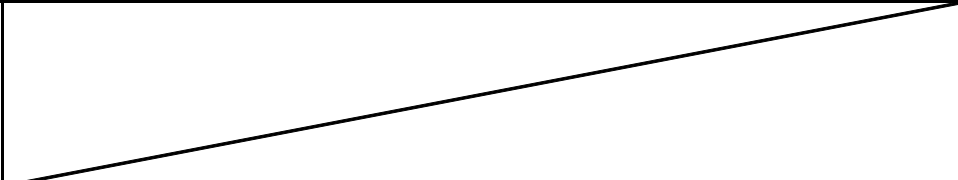
## 市長と語る会(H26.12.7実施)における意見及び市長の回答

No	意見	回答
5	<p>他市から転入したときに、府中市の障がいに対する認識の低さに驚いた。その原因の一つとして、子どもの頃から障がいのある人達と接する機会が少ないからではないかと感じている。ほかの地区では、知的固定学級の子たちも参加できる授業は通常級で学習するという制度があり、この交流を通して、周りのお友達が支援者として育っていくという面もあるが、府中市では、運動会と遠足のみ通常級と一緒に過ごしているというところが殆どである。固定級というのは、地域で障がいのある子どもと一緒に育てていくと言う選択をした学級であるはずなので、もっと交流を持って、小さい頃から障がいへの認識を育ててほしいと思い、市の複数の関係部署に相談しに行ったが、これはどこそこの管轄でうちはここまでしかできないという言われ方をされてしまう。市民との協働もさることながら、まず市の部署間での協力体制を取ってほしいが、市長がリーダーシップを発揮して変えてもらうしかないと思っている。</p>	<p>発達障がいのお子さんの相談は年々増えているのを実感している。南町の心身障害者福祉センターの「あゆの子」も満杯の状態なので、とにかくここを強化しようということで、来年度の予算から定員枠の拡大や相談体制の充実に取り組んでいくことにしているが、児童発達支援センターの設置については、東京都と相談をしているが、給食室の整備などいろいろな条件があるため、すぐに設置というのがなかなか難しく、市民の皆さんにご迷惑をおかけしていると思っている。学校における交流については、やはり、できるだけ幼いころから障がいの有無にかかわらず、個性を良く知って育み合っていくことは大変大事なことと思っている。しかしながら、府中はプレハブ教室を作らなければならないほど児童が多い中で、きめ細かくできていない部分があるのかもしれないので、教育委員会にご意見を伝えていきたい。</p> <p>また、ご指摘の縦割り行政の問題について、市民協働、みんなでまちを作っていく最初のキーは、職員の意識が変わることが必要と思い、市民協働推進本部という横断的な組織を作った。現在、職員の意識啓発研修を実施しているが、引き続き、一生懸命努力していくので、よろしくお願したい。</p>
6	<p>(5の意見に関して)            自宅近くの小学校で通級学級のボランティアをしているが、学校からの配布物の中で、通常学級と通級学級の交流の記事が書いてあったので、少なくとも、交流しているところはあるということで、ご承知とは思いますが、参考までに。</p>	

## 市長と語る会(H26.12.7実施)における意見及び市長の回答

No	意見	回答
7	<p>息子が調布市と府中市、三鷹市3市で運営する障がい者施設を利用しているが、問題が起きたときの体制に疑問があり、施設立ち上げ当時のことを調べたいと思った。東京都や調布市に公文書の開示請求をしたところ丁寧かつ直ぐに開示されたのだが、府中市は、12、3年前の当時8億円くらい支出しているのに、10年経過しているので開示できないという返事であった。とんでもないことである。</p>	
8	<p>大災害が発生した時のことを考えると、調布基地跡地というのはいろいろな施設が集中しており、非常に大切な場所であると思う。ただ、3市で借りているところなので、ないがしろにせず、必要な場所であると主張し、先手を打っていくことが大事ではないか。このことを一生懸命考えていただきたい。</p>	<p>基地跡地利用については、東京都の副知事と府中、調布、三鷹の市長で四者協議会があり、四者全員の合意をもとに利用計画を立てている。今、府中市では具体的な計画が二つあって、一つは学校給食センターの建設で、南町の給食センターが築40年を過ぎ、耐震化されていないこともあり、地震発生時に長時間にわたって学校給食がストップするというリスクを避けるために建設することになっているもの。もう一つは、府中消防署の白糸台出張所の移設で、これに併せて府中消防署から特別救助隊を移管し、新たに救急救命の拠点として整備する計画で、これは具体的な設計も進んでいる。また、関東村という俗称の暫定的な球技場については、長期的には北多摩地域の下水を処理する施設を建設する計画がある。</p>
9	<p>長年府中に住んでいるが、なかなか自分の考えを市政に反映させる、届けることができない距離感を感じている。審議会等の委員も募集しているが、結果を見るといろいろな活動団体の役職の方が多く、私のような一般の市民は、公募枠に応募しても落選してしまい、意見を述べる機会を持ってないので、審議会等における一般市民枠を拡大してほしい。</p>	<p>市民の皆さんの声については一つでも多く聴きたいと思っていて、市長への手紙についても全部見るようにしているので、その姿勢については理解していただきたいと思う。ご意見のあった、審議会等における公募市民枠の拡大についても、市長就任直後に直接指示をして公募枠の数を増やした審議会もあるので、今後も注意して努力していきたい。</p>

## 市長と語る会(H26.12.7実施)における意見及び市長の回答

No	意見	回答
10	<p>府中に住んでいて、市内を移動するのが非常に不便に感じる。一例ではあるが、府中本町駅には、西武多摩川線を使っても、ちゅうバスを使っても行くことができない。市として、できるだけ市民が動きやすい交通ネットワークを形成してほしいと考えている。</p>	<p>交通網については、お住まいの場所によっていろいろご意見もあると思うが、全体的には、中央高速道路のインターがあったり、この面積の市にしては鉄道駅が14駅もあるので、便利なまちだと言われることもある。しかし、ご指摘のとおり、武蔵野線の発着する府中本町駅との接続や西武多摩川線が是政駅が終点のために不便であるという声も聴いている。ただ、鉄道については事業者があることなのでなかなか難しい面がある。多摩都市モノレールの構想の中には、是政駅から南多摩駅、多摩センター駅という路線があるため、早期実現について、東京都や国に要望はしている。また、ちゅうバスについては府中駅を起点に走っているのので、府中駅で乗り換えれば、府中本町を通る路線はあるが、府中本町駅の構造上、バスロータリーが作れないという制約がある。駅の横にある御殿地を整備した時にバス停を整備できればとは思っている。府中駅が終着となっている路線を府中本町駅まで延伸してほしいというご意見については、ちゅうバスの検討協議会に伝えていきたい。</p>
11	<p>私は以前審議会に公募市民として参加したことがあるが、そこでもっと勉強しなくてはいけないと思い、2年間独自に学習して興味のある専門分野の知識を蓄えた。協働の第一段階として市職員のスキルアップという話が出たが、私の経験から言えば、それと同時に、各自の意見を素直に言い合える場所をどんどん作っていくことが大切ではないかと思う。そうすることで、そこに参加した市民が、自分も勉強しないときちんとしたことが言えないということで育っていくと思うので、まず、みんなが話し合え、成長し合えるカフェのようなものの設置を強く推進していくとよいのではないか。</p>	<p>確かに、市に対して自分の意見を伝えたい、あるいは語り合いたいカフェ的な場所はあったほうがいいと思う。府中駅南口の再開発ビルの5階・6階に協働を意識したゾーンを作るので、そのスペースがそのような場所になっていくのかなと思う。仙台市では、人が集まって話し合ったり、黒板にいろいろ書き残してみたりするスペースを設置しているので、アイデアの参考にしたいと考えている。</p>
12	<p>カフェの話が出ていたが、今後文化センターの機能強化が図られるということになると、再開発ビルよりも、住んでいるところに近い文化センターが、カフェ的な役割を担っていくのはどうか。</p>	



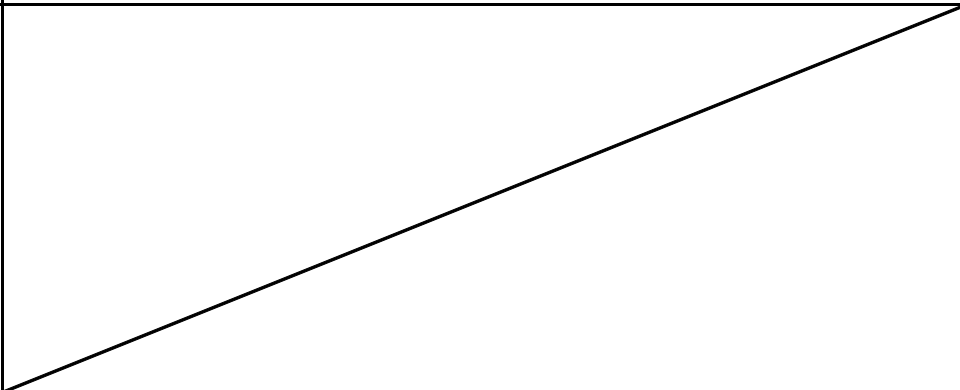
市長と語る会(H26.12.7実施)における意見及び市長の回答

No	意見	回答
13	<p>今府中には、コミュニティセンターとか自治会とかコミ協とかいっぱい組織があるが、市のどの部門が管理をしているのかが市民にはわからない。そのために、意見や相談の窓口がどこになるのか、予算削減の最終目的がどこにあるのかということも見えてこない。これでは、どのように協働をするのかという形も出てこない。行政はどうしても「今までどおり」という形でアドベンチャーの部分がない。各部門間の調整を行うにも、担当部署を作るという安易な考え方が非常に増えていると思う。</p>	<p>行政機能が複雑であるため、市民の方が、何かを思いついたときに、市役所のどこに伝えればよいのかわかりづらいこともあると思う。縦割り行政改善の一步として、市民協働推進本部、建築施設課、防災危機管理課という横断的な組織を作るところまで来た。私一人の力でどこまで変えられるかわからないが、引き続き努力をしていくので、今後の動きを見ていただきたいと思う。</p>
14	<p>府中市には官と民の協働事業が数多くあるが、全ての事業に対して、毎年一律に予算を削減される状況にある。しかし、いくつかの事業が一緒になれば予算を減らさずに済むなどという縦割りを超えた判断や調整ができるようになるのか。文化センターや町内会などが同じ日にお祭りをして市民の取りっこをしている状況がある。コミュニティセンターは、地域のこと全部把握して、このような状況を調整していくのが本来の仕事だと思うが、難しいことではないのですぐにやっていただきたい。</p>	<p>イベントについては、府中の場合、市民の方が独自でやられているものも含めて非常に数が多いので、見直しをしなければいけないというのは常に念頭にある。見直しは何年かかかることもあると思うが、無駄なお金を使わないよう進めていきたい。また、役所というところは、そもそも何のためにやっているのか、どうして始まったのかということ忘れて、予算がついているからずっとやらなければならないとか、いったん予算の削減となると一律3%とか5%とかに陥りがちなので、普段から職員には原点に帰るよう話をしている。今日いただいたご意見も踏まえて、さらにやっていきたい。</p>
15	<p>(14の意見に関して) 各コミ協に対しては市からの委託金が出て、そこからコミ協内のいろいろな協働事業にお金が出ていくので、コミ協内で行われている事業については改善を図ることができると思うが、その連絡調整を図る場がない。コミ協間の連絡会の設置について市にバックアップをお願いしたい。</p>	<p>府中市には11の文化センターがあり、これは先代が作っておいてくれた宝物だと思う。これから高齢者が増え、また、災害が起きた時のことを考えると、市役所の機能がもっと文化センターに下りてきて、具体的にそこで問題が解決できるようにしていかなければいけないと思っている。そうすると、コミ協間の連絡調整は大事だと思うし、イベントの統合についても進めていかなければいけない。</p>

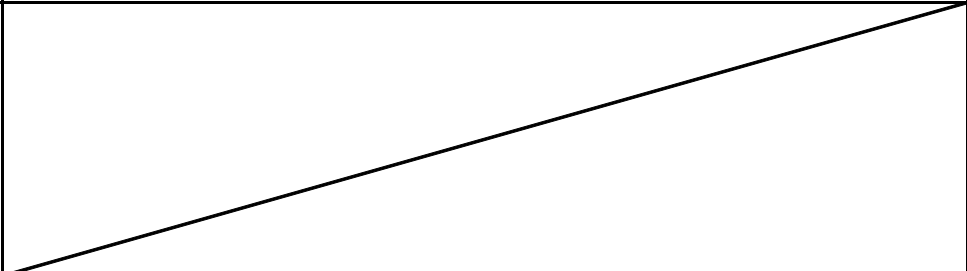
## 市長と語る会(H26.12.7実施)における意見及び市長の回答

No	意見	回答
16	<p>防災の日に学校に行って知ったことだが、学校の施設・設備が余りにも程度の良くないものばかりで驚いた。災害時に被災民として体育館を利用する際には、もっと過酷な体験をすることになる。災害対策一つにしても、現実を見ずに机上の仕事だけしては何もわからない。市長は裸の王様にならないでほしい。</p>	
17	<p>協働を進めるという意味では、市民の意見を吸い上げて組織に生かすことが大事だと思うが、市に行ってもたらい回しにされることが多いので、そこに言えば全部通ると言うような組織を作ってもらいたい。</p>	
18	<p>協働の事例として説明のあった「高齢者見守りネットワーク事業」だが、実際は、夏の時期に飴を配られて2、3箇月間の見守りをやれと言われる。しかしそれでは1回行ったら終わりなので、結局、自治会の支出で補っている。何回か行けるように、もう少し予算をつけてもらいたい。</p>	<p>まちの課題は、以前は市民の皆さんが協働で解決してきたということもあり、今また市民協働について皆さんと一緒に考える場を作っている。市としては、一生懸命活動を支援するつもりではいるが、この場を借りて財政の実情を少しお話しさせていただくと、府中市は以前は非常に財政的に恵まれた市であった。それは主に平和島競艇場の収益によるもので、これまでの60年間に2700億円、つまり学校が90個作れるほどの税収外収入があった。このおかげで文化センターをはじめとする各施設や公園・街路樹の整備充実を図ってこられた。しかし、今となってはレジャーの多様化とファンの高齢化により、赤字にはならないものの、毎年2、3億円の収入をあげるのが精一杯という状況である。一方で、高齢者の方の増加により国民健康保険や後期高齢者医療保険への持ち出しも多くなり、また、生活保護世帯も増加する中で、このような扶助費への支出が毎年5億円ぐらいつ増えていっている。入ってくるものが減り、出て行くものが増えるとなると、いろいろ見極めが必要で、今まで使ってきた公共施設についても、維持管理費用を削減するために順次やめていくことになる。このような実情を共通理解として持っていただきながら、一緒に考えていただきたいと思っている。</p>

市長と語る会(H26.12.7実施)における意見及び市長の回答

No	意見	回答
19	<p>府中市は歴史があり、自治会組織が非常にしっかりしたものがあつたため、かなり、それをベースにした市民の声の取り上げ方、反映の仕方になつてゐる様に思ふ。他方、私のように、他所から転入し、自治会組織とコミュニケーションがなかなか取れずにいる未組織の市民も少なからずいるということ念頭に置いて、広報紙やインターネットを活用するなど、従来の自治会組織だけに頼らない手法により、誰もが協働に参加しやすくなるようなネットワークづくりに尽力してほしい。</p>	<p>同様のご意見をいただいている。自治会連合会の皆さんも、とにかく一人でも多くの方に自治会に入つていただけるよう努力をされているが、タイミングがなかったり、身近に自治会がなかったり、いろいろ考えが違つたりすることはあると思う。市としては、自治会への加入増に向けて応援はしているが、ただ、ご指摘のとおり、それだけではいけない。NPOやボランティアという団体も車の両輪の一つであり、各文化センターのコミュニティ協議会の中にある自主グループという趣味のサークルから活動の場を拡げていかれる方もおられると思うので、広報にも努めていきたい。</p>
20	<p>スクールコミュニティのコーディネーターとして、また地域の中で子どもと関わる立場で、行事の企画や統廃合のコーディネーターをしているが、先ほど話の出た、ハンディキャップのある児童との交流について、学校の授業は別々でも、地域の行事では一緒に活動してくれるので、手伝うこちらとしても非常に嬉しい。また、それを機会に、学校でも、通常の子らと行動をともにしようね、ということになつたりするので、学校もさることながら、我々地域に住む大人も声かけをする必要があるのかなと思つている。</p>	
21	<p>学校給食センターについて、現行のセンターが耐震化の問題を抱えているので新しく建設することはとても良いと思うが、他方で、自校給食を何箇所か残しておく、一箇所がだめになつた時の代替施設として機能するのではないかと。</p>	<p>段階的にセンター方式に移行する中で、3校に給食室が残つているが、食品を取り扱う安全基準が大幅に変わったことにより、それぞれの学校に給食室を作るとなると、大変な面積が必要になる。いろいろな考え方があつたと思うが、建替え時に校庭をさらに狭くして給食室を作るわけにもいかないということで、しっかりした給食センターを一つ作ることにしたが、危機管理上6つの部屋に別けて別々のメニューを作るような構造にしていくことを考えており、配食等にトラブルが起きるようなことは逆にはないと思つている。</p>

市長と語る会(H26.12.7実施)における意見及び市長の回答

No	意見	回答
22	<p>災害時の備えについて、市内には、災害時に避難所となる小中学校が全部で33校あるが、その約6割は、避難所として指定されている場所が体育館のアリーナと呼ばれる地下部分である。しかし、災害時、ライフラインが止まっているときに、地下まで降りるのは大変であり、近くの中学校において、避難所体験として地域の方に参加していただいたが、ハンディキャッパーの方は地下まで降りるのが非常に大変ということがわかった。そこで、防災危機管理課の協力を得て、1階の武道場をハンディキャッパー、子ども、婦女子、お年寄りの方々に優先的に使ってもらうことになった。</p>	<p>「市長と語る会」を開催してきた中で一番ご意見が多かったのが、災害が起きたときにどうするかという話であった。その時に必ず皆さんにお話していることだが、市としては、まず3日分の食料と飲料水を皆さんのご自宅に用意するようにしてほしい、また、もし家に倒壊の危険があるのであれば、多少市からの援助もあるので、耐震化を進めてほしいということである。それというのも、東日本大震災による被害を受けた現地の市長さん達から一番強くお話をいただいたのが、絶対に避難所に行かずに済むようにするべきだということ。仙台市の市長に聞いたのだが、学校の体育館を避難所として開放したところ、一番元気な方が、家も崩れてなくて自宅で生活ができるのに、一番最初に避難所に来て食料を持って行った。そしてハンディキャップのある方や高齢で移動がスムーズにできない方が一番最後に来て、一番寒い出入口近くにスペースを確保するしかなかった。これが現実なのだ、という話である。府中市民の方と話をしていると、うちは学校まで遠く、避難生活が大変なので、近くに避難所を作れないか、と言われる。やはりまず、最初に避難所に行くのではなく、自宅にいられなくなって最後に避難所に行くのだというように考えを切り替えていただく必要がある。ただし、そうなった時に混乱しないよう、訓練は必要であると思う。いただいたご意見はもっともで、確かに地下にアリーナがある中学校は移動が大変なため、そこは柔軟な考え方をしなければいけない。</p>
23	<p>他の方からの意見も出ているが、部署間の縦割りについて、国や都から下りてくる予算と最終的に市で実行する担当部署が違う場合に、ただ、できないという返答ではなく、逆にどのようにすればできる、という行政側から提案があるとありがたい。そういった橋渡しをするコーディネーター的な課があるとよいと思う。</p>	



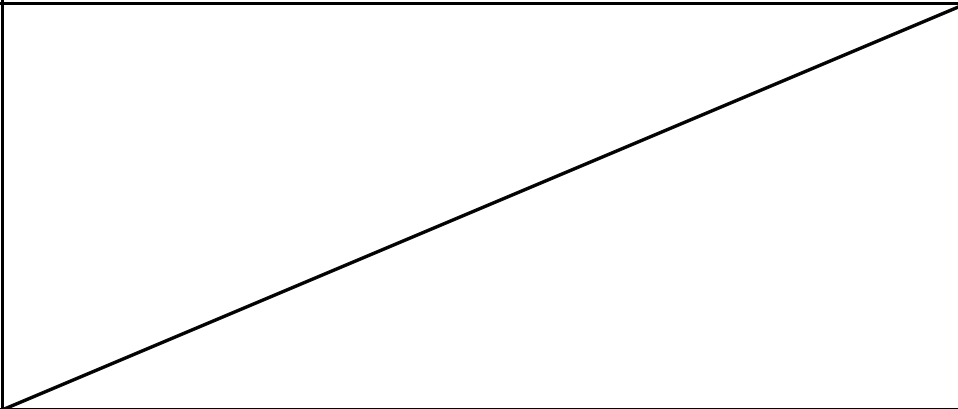
市長と語る会(H26.12.7実施)における意見及び市長の回答

No	意見	回答
24	<p>個人的な所感だが、今まで府中市は、言い方は良くないが「あぶく銭」があり、他の市町村からも府中は豊かだからと言われることもあり、市民が行政にあれもこれもやってと言い、行政も二つ返事でやってしまうところがあったように感じる。今となってはそういう時代ではなくなったのだが、まだ意識はその時の延長線上にあるのではないか。例として良いかどうかはわからないが、公園や緑地が増えれば当然落ち葉もたくさん出る。落ち葉の掃除は本来地域のみんなが少しずつやればよいところが、今までの流れでこれは行政がやれという感じで、どちらかという、市民は、行政に言えばやってもらえるというようなところが、ある時代からずっと続いてきていて、大変になってしまっているのではないか。それを戻すために、まさに協働という旗印があり、地域の住民や町会など、それぞれのレベルでできることがあるなら、それはみんながそれぞれやっていくべきではないかということだと思う。だから行政も反省しないといけませんが、地域に住む私達住民も反省しないといけないと思う。</p>	
25	<p>私の町会では、資源回収を精力的に行い、そのお金で、防災用の資材や機材を調達している。消防OBとして、阪神淡路大震災の現場も見ているが、避難所では、夏でも冬でも毛布2枚の生活で、幅2メートル弱のスペースで、よその人のいびきを聞いて生活しなければならぬ。避難所の生活は過酷である。そのため、市長の言うように、真っ先に避難所に行くのではなく、うちの町会はずちの町内を死守するくらいの決意で、食料についても町会内の家で分散して備蓄している。このようなことを少しずつでも進めていくことが必要ではないかという認識でいる。</p>	

## 市長と語る会(H26.12.7実施)における意見及び市長の回答

No	意見	回答
26	<p>今日は、年配の方達の含蓄のある話を聞くことができたが、この場に若い人がいない。若い人をもっと呼び込んで、柔軟な頭や労力をもっと利用すれば、経験者の今までの積み重ねもより生きてくと思うが、肩書きのない人でも来られるような交流の場がないところが、府中の一番遅れているところだ。</p>	<p>決して若い方に声が届かないようなことはしていないと思う。この3回連続の「市長と語る会」については、協働というテーマで、より多くの方々に公募で来ていただくとともに、協働に関係する方々の意見もいただける場ということで設定しPRをしたつもりである。決して、ご意見のようなことをしているつもりは全くなく、今日いただいたご意見も今後の参考にしていく。</p>
28	<p>文化センターに児童館があるが、中学生になると児童館にもだんだん行きづらくなり、高校、大学から勤め人のあたりになると、疎外感というか地元と距離ができて、小学生のときに培われた地元愛のようなものが、その後家族を持つようになるまでの間、飛んでしまう。若い人がなかなか地域に入って来られない形になっているのではないかと危惧している。独身独居の若者とか、毎日都心に働きに行き帰って寝るだけのような人達にも、府中に何らかの愛を感じてもらって、参加できるような窓口を作っていかないと、肩身の狭いように感じ、自分達には関係ないと思っている人が結構多いのではないかと思うので、そういう人達にも文化センターを開放してほしい。</p>	<p>このことについてはすごく悩んでいる。確かに文化センターの児童館は、高校生から上の世代にはフィットしにくい。中央図書館なども多くの人に使ってもらっているが、それだけではなく何かできないかと思っている。</p>
29	<p>武蔵境駅前の複合施設には10代の子しか入れないティーンズスタジオというものがあり、若い子たちが集ったり、バンドやダンスの練習ができたりする。調布市にも、中高生がバンドの練習などで使うスペースがある。そういったところも参考に目を向けてほしい。</p>	<p>府中市にも音楽練習室はいっぱいあるのだが、複合的な施設だから目に留まらないのかと思う。</p>

## 市長と語る会(H26.12.7実施)における意見及び市長の回答

No	意見	回答
30	<p>使い方を見せたり、管理の仕方の問題だと思う。武蔵境のそのエリアは、良くないこと、親の目を盗んでやるようなこともしている場所になっている。それでもいいという、安心できるような声かけができていくかどうかということが、居場所になるかということでは必要なのではと思う。</p>	<p>そこは難しいところだと思う。図書館や生涯学習センターにしてもやはり大人の目があるし、文化センターは高齢者福祉館も入っているの、そちらの意見も聴かなければならないということもある。</p>
31	<p>確かに世代間の交流は難しいところがある。文化センターも中学生ぐらいまでを対象に、まとまっていこうという思いがあって作った部分もあると思う。実際に、年配の方や小さい子、その親御さんなどが利用しているため、世代間コミュニケーションを取れる安心の場になっているところはあると思う。ただ、時代の流れで、高校生、大学生、独身の若い方に地元で根ざしてもらうという意味でも、文化センターやコミ協が、他地域の活動を参考にして、そういう世代に向けて発信、宣伝していくことは、これから必要なのではないか。</p>	
32	<p>落ち葉を拾うということに関して、昔はみんなでその作業をすることがコミュニティの形成につながっていた。ところが今、それは市の仕事になっていて、みんなで作業をする時間や場がなくなっており、地域にとってマイナスになっている。だから、市としても、市民に対して、自分達が使う場所なのだから自分達で拾ってくださいという姿勢ではなく、このことがコミュニティの形成になる、自分達のためになるのだという認識を市民の方にちゃんと持っていただく、理解して貰うようにしたほうが良いのではないかと思う。</p>	<p>今日は全3回のシリーズの最終日であるが、全ての会で、災害時の対応、世代間ギャップ、若者の集う場所、行政の縦割り、予算のこと、障がい分野での協働のあり方などについてのご意見をいただいた。今後、市長としてのリーダーシップを発揮して、できる限りスピーディーに対応を進めていきたいと思う。いずれにしても、今日が皆様にとって府中市に愛着が増す一つのきっかけになればと思うし、また、今日相互にいろいろ情報交換したことについて、ご家族やご友人、ご近所の方にお伝えいただければ、大変ありがたいと思っている。</p>